

沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 88

2019年6月15日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

沖縄に米軍基地はいらない！

6月4日午後、浦添市当山の浦添西中学校の校庭にゴム製部品が落下したことについて、全国版の新聞やテレビなどでどのように報道されたのでしょうか？ここ沖縄では、落下したゴム製品は普天間米軍基地を飛び立ったCH53E大型輸送ヘリの部品であったことが判明し、一歩間違えれば重大事故につながりかねないと、浦添西中学の生徒のみならず、地域住民も不安と恐怖におびえる日々が続いています。米軍はこの事故に対して、落ちたのは軽いテープであるから「人や物に脅威をもたらすものではない」などと何ら反省も謝罪もなく、事故を二度と起こさないようにするという発言などは一切ありません。子どもたちの命を脅かしておきながら、今も学校上空を輸送ヘリが飛んでいます。

CH53E大型ヘリは、高江の民間の牧草地に緊急着陸し炎上、宜野湾市の緑ヶ丘保育園の屋根にプラスチック製円筒を落下、普天間第2小学校に窓を落下など、数々の事故を起こしています。今年の6月6日には、米・カルフォルニア州ミラ基地を拠点とする同機が飛行中に炎上した事故もあります。

この大型ヘリは1981年から運用しているために機体の老朽化が指摘されていました。このような欠陥機が今も沖縄県民の頭上を飛び交っています。このため、普天間第二小学校には「防空壕」が造られ、学校上空を飛ぶ機体を発見するための人員を配置するなどして警戒しています。浦添西中学校でも、先生が校庭で見張りをするなど子どもたちの安全を守る活動が続けられています。防空壕や見張りでは、子どもたちの安全を守り切れないため、欠陥機が学校上空に飛ぶことがないように要請をしていますが、何ら米軍から回答がありません。

墜落や落下物、騒音をまき散らすこのヘリの所属は普天間基地で、「世界一危険な基地」と言われて20数年が経っています。まずはこの危険を除去することが政府、米軍当局に求められることですが、何の努力もしないばかりか、辺野古新基地建設を条件にそのまま放置している始末です。仲井眞元知事の時代に「5年以内の運用停止」が約束されましたが、米国とそのため協議をした形跡はありません。こうしたことを国会で厳しく追及したという話も聞いていません。何と情けない政治家どもかとがっかりします。

普天間基地は、米軍の占領中に住宅や畑をつぶして造った基地であることは、これまでも再三報道はされています。アメリカの基準では、クリアゾーンの中には学校、病院、住宅などはあってはならないと厳しく条件が付されているのに、普天間基地周辺はクリアゾーンの中に住民らが生活しているのです。こんな基地は世界広しといえども普天間だけではないかと思えます。

沖縄国際大学に大型ヘリが墜落炎上したり、普天間第2小学校にヘリの窓を落としたり、重大事故が再三再四発生しているにもかかわらず、日本政府は「安全保障条約」をたてに航空法の適用を米軍には除外して、墜落しようが不時着しようが米軍機はどこを飛んでもよろしいと保証しているのです。県や地元自治体がいくら抗議しても、飛行禁止を求める議会決議を上げて、何ら効果が見られない事態が続いています。

沖縄地上戦の際に県民は日本の軍隊によって集団自決を強制されたり、スパイ容疑で射殺されたりしました。「軍は住民を守らない」と身をもって体験したと伝えられています。今の事態は、この戦争中と全く同じではないかとの声も上がっています。

安倍政権は学校上空を我が物顔で訓練飛行する米軍機を黙認し、子どもを守ってくれない。松本文明内閣府副大臣に至っては「それで何人死んだのか」とヤジを飛ばすなど、政治家以前に人としての品性のかけらもない人間が今の日本政府の中核にいます。市民の命を軽んじる者は即刻辞めていただきたい。

72年復帰から47年間米軍機の事故は約800件発生しています。今も県民は命を脅かされています。米軍基地はいらない！沖縄から出ていってまいりましょう。